

# 親の養育不安と 子どもの生活の質 を考える

QUALITY

平成20年6月14日(土)13:30～16:30

新宿明治安田生命ホール

LIFE

## プログラム

テーマ「親の養育不安と子どもの生活の質を考える」

司会 長田久雄 (桜美林大学大学院教授)

- |  |   |
|--|---|
| 1. 開会あいさつ  | 〈休憩〉  |
| 2. 演者からの提言<br>「子どもは安全の基地を必要としている」<br>繁多進 (白百合女子大学教授) | 3. 指定討論<br>東洋 (東京大学名誉教授)<br>柿沼美紀 (日本獣医生命科学大学教授) |
| 「発達障害児の SST と養育不安の変化」<br>五十嵐一枝 (白百合女子大学教授)           | 4. 質疑応答・ディスカッション                                |
|  | 5. まとめ  |

## ごあいさつ



財団法人成長科学協会  
理事長 入江 實

財団法人成長科学協会は、身体の発育・成長の問題だけでなく心の発達に関しても強い関心を持ち、“心の発達研究委員会” (委員長:長田久雄・桜美林大学大学院国際学研究科教授) を中心として活動を続けております。

この委員会が企画いたします公開シンポジウムも今回で第21回目を迎えました。今回は「親の養育不安と子どもの生活の質を考える」というテーマです。

現在第一線で活躍されているお二人の研究者、繁多進先生と五十嵐一枝先生にご提言をいただき、親たちが抱える養育不安が子どもに与える影響、またそのような状況下の子どもにはどのような働きかけが必要かなどについてお話しいただきます。そして同委員会前委員長の東洋先生、同委員の柿沼美紀先生のコメントを交えながら、質疑応答およびディスカッション、まとめを進めて参りたいと思っております。

司会は、長田久雄先生にお願いしました。

是非、多数の皆様の御参加をお待ちしております。

## 演者からの提言〈要旨〉

### 「子どもは安全の基地を必要としている」

繁多 進

育児に不安や戸惑いはつきものである。自分とは違う人間を育てるのに自信満々の育児などありえない。「ああでもない」「こうでもない」「どうしよう」と不安と戸惑いの中で誰もが育児に励んでいる。そのような試行錯誤を重ねながら少しずつ、より望ましい方向を見出していくというのが多くの親がしていることである。しかしながら、あまりにも強い養育不安は子どもの発達に大きな影響をもたらす。子どもは「この人は自分を守ってくれる人」「この人といれば大丈夫」と思える人を必要としている。その人を安全の基地にしながら子どもはさまざまな側面の成長を成し遂げていく。強い養育不安をもたらす要因は何なのか、強い養育不安を持つ親にどのような支援が可能なのか、そのような状況で生活している子どもにどのような働きかけが求められるのか、などについて考えていく。

### 「発達障害児の SST と養育不安の変化」

五十嵐 一枝

アスペルガー障害や自閉症、AD/HD、LD などを含む発達障害児は、障害の本質はそれぞれ異なるものの、社会適応能力の発達に共通の問題を持つことが多いといわれる。対人的相互性や状況の読み取り、言語コミュニケーション、行動や感情の抑制、時間の配分や見積もり、知識や興味のあり方、粗大・微細運動機能等における問題は、発達障害児の日常生活においてしばしばトラブルの誘因となり、本人はもちろん養育者の不安や混乱を引き起こす。私はこのような子ども達の主たる困難を社会的認知の問題と考え、発達障害児を対象に SST（ソーシャルスキルトレーニング）を試みてきた。その結果、子どもや大人との相互の関りの中で社会的認知とスキルの発達を促す SST の進行に伴って、養育者の不安が軽減し子どもに対する理解や関わり方が変化することが明らかになった。本シンポジウムでは、事例を紹介しながら、発達障害児における SST の意味と養育不安の軽減について述べる。

## 演者

### 繁多 進

はんだ すずむ ●東京都立大学大学院（心理学専攻）修士課程修了。横浜国立大学助教授などを経て、現在白百合女子大学児童文化学科教授。発達心理学、臨床心理学専攻。1979～1980年はロンドン、タヴィストック・クリニックに留学。著書に『愛着の発達』『乳幼児発達心理学』（編著）、訳書にヒラリー・クリントン『村中みんなで』（共訳）など。

### 五十嵐 一枝

いがらし かずえ ●日本女子大学大学院（児童学専攻）修士課程修了。東京女子医科大学小児科児童心理相談員を経て、現在白百合女子大学児童文化学科教授。2002～2006年まで同大学発達臨床センター長を兼務。専門は発達臨床心理学。著書に『子どもの発達と保育カウンセリング』（共著）、『脳とワーキングメモリ』（共著）、『軽度発達障害児のための SST 事例集』（編著）など。

## 指定討論

### 東 洋

あずま ひろし ●日本女子大学、東京大学、白百合女子大学、文教女子大学を経て清泉女学院大学学長を2007年退職。東京大学名誉教授。専門は教育心理学、発達心理学。主な著書は『子どもにものを教えること』（岩波書店）、『日本人のしつけと教育』（東京大学出版会）、『子どもの能力と教育評価』（東京大学出版会）など。

### 柿沼 美紀

かきぬま みき ●日本獣医生命科学大学教授。文化間、定型・非定型発達児、チンパンジー・ヒトの比較から乳幼児の社会性の発達を研究。著書に『子どもの「やさしさ」を育む本』。

## 司会

### 長田 久雄

おさだ ひさお ●桜美林大学大学院国際学研究科教授。

主催 財団法人 成長科学協会  
企画運営 心の発達研究委員会  
〒113-0033 東京都文京区本郷5-1-16 NP-IIビル  
TEL. 03-5805-5370